

平成20年度 教師海外研修 (派遣国:マレーシア) 実践報告書

1. タイトル Think globally, Act locally
2. 氏名 古谷 仁志
- 学校名 和泉市立槇尾中学校 担当教科: 英語
3. 実践教科 高校3年生 総合/ 高校1年生 国際
- 時間数 高校3年生 3時間 /高校1年生 4時間
4. 対象生徒 高校3年生 66人 /高校1年生 51人 計81名
5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

- ・ マレーシアとはどんな国かを学ぶ
- ・ パーム油を通じて自分達の生活と世界とのつながりを感じる
- ・ 自分達の生活を通じて環境へ出来ることを考える
- ・ イスラム教について正しい理解をする

(2) 実践の構成案

| 時限・テーマ・ねらい | 方法・内容 | 使用教材 |
|---|---|--|
| 1 時間目 テーマ:マレーシアを知ろう ねらい:マレーシアの生活や文化の違いを知り、理解する。マレーシアに興味を持たせる。 | ・ マレーシアへ研修に参加した経緯や道中でのエピソードを話す。 ・ 研修中に撮った写真を用いピクチャーランゲージを行う。 | ・ マレーシアについて (パワーポイントにて) ・ マレーシアからのお土産 (イスラムの帽子・コンパス・ハラルマークなど) |

| | | |
|---|---|--|
| <p>2 時間目</p> <p>テーマ： パーム油と私達の生活</p> <p>ねらい：パーム油への知識を学び、興味関心を持たせる。パーム油と自分達の生活とのつながりを知る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・アイス、冷凍食品、ポテトチップスなどの商品を見せ、共通点は何か考えさせる。 ・パーム油の特徴を知る。 ・ライオンのCMを見せ、感じたことを述べさせる。 ・宇宙船地球号のビデオを見せ、印象を対比させる。 ・自分達の生活と、マレーシアの環境とのつながりを知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・パーム油と私たちの生活（パワーポイントにて） ライオンのCM 宇宙船地球号のビデオ ・パーム油が使われている商品（アイスクリーム・冷凍食品など） ・クイズや一部の教材を19年度参加の先生方の資料や教材から使用させていただきました。 |
| <p>3 時間目</p> <p>テーマ：パーム油を通じて自分達の出来ることを考える</p> <p>ねらい：パーム油を取り巻く状況を理解し、それぞれが環境に出来ることを考える。</p> <p>これから自分が環境に出来ることを考える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業の振り返り。 ・「マレーシアの農民」「日本人」「パーム油を作る企業」の立場で何が出来るかを考えさせる。 ・意見を発表する。 ・現在行われている環境に対する取り組みを紹介する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分達に出来ること（パワーポイントにて） ・ボルネオトラストのHP ・ワークシート |
| <p>4 時間目（1年のみ）</p> <p>テーマ：イスラム教を知り、理解する</p> <p>ねらい：宗教とは何か、そして、イスラム教について正しく理解する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・イスラム教について持っている印象を発表させる。 ・パワーポイントを用いイスラム教について学ぶ（クイズなどもある） | <ul style="list-style-type: none"> ・イスラム教について（パワーポイントにて） * 19年度参加の金田先生の資料を参考に製作しました。 ・イスラムグッズ |

1、 授業実践の詳細

● 1 時間目：『マレーシアを知ろう』全校集会にて 50分

使用教材：パワーポイント（研修中の写真）マレーシアからのお土産

パワーポイントの写真を見せそれが何かや、どんな風景であるかを生徒推測させる。ハラルマーク、イスラム教徒のお祈り、トイレなどの写真を通じ、自分達の生活とは違うことを知らせ、マレーシアの文化や生活について理解を深めた。マレーシア

全般のことについて触れることができ、これからの授業への関心を高めるようにこの導入を取り入れた。何よりもマレーシアについて慣れ親しむことを主眼に置いた。

<生徒の反応>

- ・ トイレの写真や村落でのホームステイ時の写真などには、非常に興味があるようで、良い反応を見せてくれた。皆長い時間にもかかわらず、興味を持続させてくれたと思う。大人数での実施であったため、各生徒の反応が見ることができなかったのが残念だったが、マレーシアに興味をもって発表を聞いてくれていた。

資料



キブラ



市場の風景

● 2時間目：『パーム油と私達の生活』1年、3年 50分

使用教材：パワーポイント

- 1、アイスクリーム、油、ポテトチップスなどを見せ、共通する事柄を推測させる。なかなかわからないが生徒自身が商品を手に取り、パーム油のことに気づき始める。そして、パーム油の姿や特徴などを学習する。ライオンのCMを通じその有用性や、プランテーションの存在などに焦点を当てる。その後、宇宙船地球号のビデオで自分達の生活とマレーシアのつながりを知る。

<生徒の反応>

- ・ 生徒達はパーム油の存在をまったく知らず、自分達の生活の中にこれだけ使われていることを知った時は驚いていた。前半ではパーム油がすごく役に立つことを知り、素直に感心していた。後半では自分達の生活がマレーシアの環境とつながりがあることを知り、そのことに問題意識を持っていた生徒も数人いたように感じる。なかなか、自分達や自分自身の問題として自覚しにくいところがあるのか、反応の良い生徒や、「どうでもいいやん」などの反応も見られ残念であった。

資料



○×クイズ

パーム油、これがいいところ

- ① たくさんとれる
- ② 自動車の燃料にもなる
- ③ 二酸化炭素がふえない

環境にやさしい？

- ・ 植物を植えているから??
- ・ パーム油を使っているから??
- ・ パーム油プランテーションで多くの生き物が暮らす場所を失っている。

● 3時間目：『自分達に出来ること』3年 1年 50分

使用教材：パワーポイント、ワークシート*資料プリント参考

- 1、 前回の授業を振り返り、その中でマレーシアの環境と私達の生活を取り巻く構図を理解する。そして、その中の「マレーシアの農民」「日本人」「パーム油をつくる企業」に焦点をあて、それぞれの立場で環境に対し何が出来るかを考えさせる。それぞれが考えた方法を発表し、それに関する課題などを話し合う。
- 2、 現在、マレーシアで行われている環境に対する取り組み（ボルネオトラストなど）を紹介する。
- 3、 これまでの授業に関する感想を書かせる。

<生徒の反応>

- ・ なかなか「マレーシアの農民」などの立場に立つことは難しいと感じられ、意見が出にくい場面もあった。しかしながら、「油やしのプランテーションをこれ以上広げない」や「売上げをマレーシアに寄付する」という予想以上の発言も見られた。

*ワークシート

それぞれの立場で、出来ることを考えてみよう！
目的は自然を守り、皆が幸せになること！！！！

| | |
|------------|---------------|
| マレーシアの農民の人 | 日本人(パーム油を買う人) |
| 企業(パーム油) | マレーシアの森 |

● 4時間目：『イスラム教を知る』1年 50分

使用教材：パワーポイント

最初に生徒に「イスラム教についての印象」をたずねる。その後パワーポイントやマレーシアで買ったイスラムグッズを使用し、その生活や教えを知り、イスラムを正しく理解させる。

<生徒の反応>

- ・ 最初の印象をたずねる場面では「怖い」や「ひげ」や「よくわからない」など、どちらかと言えば、ネガティブな印象が強かった。ただし、後半になるにつれその特徴や、喜捨などの精神に興味をもち、様々な質問も多く出てきた。最初は無関心であった生徒も、少しずつではあるが関心を示していた。

2、 所感と今後の改善点

今回のマレーシアでの研修では、マレーシアの文化の多様性、我々の生活と環境とのつながり、生物の多様性の大切さなどの多くのことを学べた。実際に私もパーム油やマ

レーシアの環境について今までこれほど深く考える機会がなかった。様々な面から自分の生活やこれからの授業について考えさせられた研修であった。

これまで私が行ってきた実践では、研修から感じたこと学べたことを、全て生徒に伝えきれていないと感じる。自分の中でももう少し整理し、何をどの道具で伝えるかをもう一度考えてみたい。今後は授業で得た知識や、考えたことを生徒達が、生活にいかに関結びつけることが鍵である。これまでの授業の中で「自分達は環境のために何が出来るか」ということを問いかけてみたが、反応が良くなかった場面があった。やはり、環境問題とはニュースや他の国だけで起こっているかのように生徒達は感じているかもしれない。ただし、私は環境への「無関心」が一番いけないものであると考えており、今回の授業によって、生徒達が少しでも環境への関心や知識を持ってくれば、それだけでも意味があったと考えている。

これからの授業では、終盤に自分達の地域での環境問題を考えさせたり、それについての解決策を考え実践させたりしていきたい。その中で、自分達の周りの環境だけでなく、自分達の知らないところにつながっているほかの国の環境へも、配慮し行動をおこせる力を生徒の中に育てていきたい。

資料（生徒の感想）